

# 長崎を最後の被爆地に

被爆76周年

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典と

平和関連行事

## 長崎平和宣言（骨子）

- 被爆者（小崎登明氏）が手記に綴った核兵器廃絶への強い思い
- 発効した核兵器禁止条約を世界の共通ルールに育てるためのプロセスが始まるという認識の共有
- 核保有国間の核軍拡に向けた動きに対する危機感の表明
- 日本政府と国会議員へ、核兵器禁止条約第1回締約国会議へのオブザーバー参加及び条約への署名・批准並びに日本国憲法の平和理念堅持の訴え、北東アジア非核兵器地帯構想の検討を要請
- 核保有国と核の傘の下にいる国々のリーダーへ、次の核不拡散条約（NPT）再検討会議で核軍縮を実質的に進展させるよう要請
- すべての人々に向けて、核兵器の危険についても行動すべき時がきているのではないかとの問題提起
- 「長崎を最後の被爆地に」の言葉に込められた意味を世界の人々と共有し、核兵器廃絶に向かおうと強く呼びかけるとともに、原爆の記憶を継承し続けていく長崎の決意表明
- 日本政府へ被爆者援護充実と被爆体験者救済の要請並びに震災から10年が経過した福島への応援
- 原爆犠牲者への追悼と、連帯により「平和の文化」を広め、核兵器廃絶・恒久平和実現に向け力を尽くすことへの決意表明



全文はコチラ

原爆犠牲者之西

遺族代

# 被爆100年に向けて

76年前の8月9日午前11時2分、長崎のまちは一発の原子爆弾によって壊滅状態となりました。

当時の長崎市の人口は約24万人と推定されていますが、その年のうちに約7万4000人のかたが命を落とし、約7万5000人が負傷されました。

あれから76年を経た今年、被爆者の平均年齢は84歳に迫っています。

8月9日、被爆76周年の平和祈念式典を執り行いました。今年は昨年と同様、新型コロナウイルスの影響で、規模を縮小しての開催になりました。

また、今年には核兵器禁止条約が発効した年であり、被爆100年に向かう次の25年のスタートの年です。

今後、被爆100年に向けて、被爆者のかたは確実に少なくなっていくと見られます。このような時代を迎えても、核兵器の恐ろしさ伝えていくことや、平和への思いを広げていくことが必要です。

今年の田上市長による長崎平和宣言で、被爆100年に向かう次の25年を、核兵器のない世界に向かう確かな道にするよう呼びかけました。さらに、被爆者を代表して岡信子さんによる平和への誓いで、命ある限り、核兵器廃絶と平和を訴え続けていくことを訴えました。



- 特集
- 市民
- 市政
- ご意見  
プレゼント

- 生活情報
- 福祉・健康
- 子育て

- 講演・講座
- もよおし
- おしらせ
- 募集

平和への取り組みは「ながさきの平和」ホームページで。